

# 一般社団法人プラスケア 事業計画書 (2017/1/10)

- ・ 2017/3/11 サービス内容および収支計画書について一部変更
- ・ 2017/10/6 サービス内容および収支計画書について一部変更

## (サマリー)

- ・ 川崎市中原区は人口が増加密集する一方で、コミュニティの希薄化による互助や医療ネットワークとの結びつきが弱く、未来への潜在的な医療資源不足のリスクがある。
- ・ がんなどの重大な病気に罹患した際の患者や家族への精神的・社会的な面での支援は乏しい。
- ・ 地域におけるこれら現存および潜在リスクの解決のため、中原地域を中心に巡回型の「暮らしの保健室」事業を展開することを計画した。
- ・ 「暮らしの保健室」は全国にあるが、収益を上げることを目指した自立型および地域内全体を巡回するサービスは新規性が高く、かつ社会的意義は既存のものよりも大きい。

## (コンセプトおよびミッション、ビジョン)

- コンセプト：つながり～「枠を超えてゆるくつながる」
- ミッション：
  - ・ 「暮らしの保健室」の維持運営を中心として、「医療者と住民が気軽につながることができる」チャンネルを地域内に散りばめる。
  - ・ 利用者とスタッフおよび地域住民の人間的な関係を基盤に、QOL 向上につながる「最良の解決策」を見出すために、看護師を中心とした専門性の高いケアをチームで提供する。
  - ・ 専門職としての判断に則り、一方的なケアを提供するのではなく、自立支援および意思決定支援を行う。
- ビジョン：10 年後の中原地域が「病気になっても安心して暮らせるまち」になることを目指す。

## (創業の動機)

川崎市中原区は 2016 年、川崎市で初めて 25 万人の人口を突破した。これは県内でいえば平塚市などに匹敵する規模である。年齢層としては、中原区は川崎市内でも若い人口が多く、平成 25 年度の統計では中原区の平均年齢は 40.5 歳である (川崎市 42.3 歳、全国 44.9 歳)。しかし、老年人口の絶対数、そして単身独居世帯も確実に増加を続けているのも事実である。しかも、人口が増え続けている背景には、中原区中心部のタワーマンションの林立による新住民の増加が寄与しており、このエリアにおけるコミュニティの希薄化も問題

となっている。このような状況において、向こう 10 年間で地域医療上問題となるモデルケースは、「高齢独居であるが近所に身寄りがなく、子息は遠方在住、友人関係も希薄」という例や「40 代の夫婦で共働き、子どもがまだ成人していない状況で、親が病気になる」、いわゆる「ダブルケア」の問題などであると考えられる。

しかし、治療そのものは病院で受けられるにせよ、患者本人そして本人を支える役割を背負わされる家族を「生活の面から支える」システムは現在の日本においては乏しいと言わざるを得ない。がんや認知症など、生命や生活に大きな影響を与える疾患に罹患した場合、本人および家族が受ける精神的・社会的負担は非常に大きいにもかかわらずである。また、家族にとっては医療機関から頻回に仕事を休んで患者への付き添いを求められる割には、医師が話す内容は専門的で理解が難しく、診察室の中では質問することすらできずに不安を募らせるという場合も多々ある。こういった、現在から将来にわたる地域医療上の不安を放置しておくことは、増え続ける地域人口を考えると、将来的に現在の地域医療資源のみでは支えきれない可能性が高く、医療者と住民とが手を取り合って、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを創ろうという地域包括ケアシステムの活動に住民を巻き込んでいかなければならないという危機感を抱いた。

このような状況の中、我々は、川崎市中原区で地域マネジメントを行う NPO 法人「小杉駅周辺エリアマネジメント（以下、エリマネ）」の取り組みとして、エリマネ、企業、医療者、住民が協力して、自分たちの健康・生活を自分たちで守るための **+Care Project** を 2014 年 6 月に立ち上げた。「からだや健康に無関心な層/関心はあるが行動に結びついていない層」に、「自分事」として考えてもらうためのしかけ、まちの中で生活しているうちに知らず知らず健康への意識が高まっていくようなしかけを散りばめていこうとするプロジェクトである。2014~2015 年にかけては、「予防」をテーマに、運動や食、からだや病気などに関する健康啓発のためのイベントなどの企画を行って来たが、2016 年からは **+Care Project** 立ち上げの際のスローガンである「病気にならないまち/病気になっても安心して暮らせるまち」のうち、後者への取り組みを中心に行っていこうと考えた。そこで、2015 年 10 月に中原区武蔵小杉において「あなたにとって、病気になっても安心して暮らせるまちとは」をテーマに街頭アンケートを行ったところ、124 名の方から回答を頂き、まとめると

**「信頼できる医療機関・医師がある」**

**「住民同士がお互い支えあえる仕組みがある」**

**「健康問題などに関して気軽に相談できる場所がある」**

という結果であった。

今回、我々はこの 3 つを満たす解として「武蔵小杉に『暮らしの保健室』を作ろう」と考えた。暮らしの保健室とは、新宿区の取り組みが有名であるが、学校の中の保健室のように、気軽に行けて、そこに行けば全ての健康・福祉問題解決のきっかけが得られる（ワンストップサービスの）場所である。具体的には、地域住民の健康に関する質問、生活にかかわるさまざまな相談、情報提供、医療コーディネーターとしての機能（病院と地域、

医療と福祉の橋渡し）などを行っている。これは、川崎市でも重点推進課題として提唱されている、住み慣れた地域で安心して最期まで暮らせるための「地域包括ケアシステム」を推進する一助になりうる事業である。

既存の「暮らしの保健室」の多くは、100%公的資金であったり、寄付、または運営する医療法人の収益からの拠出金により運営されているケースが多いが、我々はこの「暮らしの保健室」を中心として、収益をあげられるビジネスモデルを展開したいと考えた。それは、「暮らしの保健室」は全国各地に多く必要なシステムであるが、公的資金や寄付のみに頼った運営では、全国各地で広まっていくことは難しいため、我々の取り組みを全国各地へモデル事業として展開していくことを考えている。この事業を行うことにより、川崎市のみならず、社会全体の利益となることが期待される。

この事業を行うにあたり、NPO 法人エリマネの定款枠内では困難な点が多く認められたため、2017 年 1 月より +Care Project の部分を「一般社団法人プラスケア」として独立する運びとなった。

### （創業者の略歴）

西 智弘（にし ともひろ）

1980 年 4 月 北海道釧路市 生

1999 年 3 月 北海道立釧路湖陵高校 卒業

1999 年 4 月 北海道大学医学部医学科 入学

2005 年 3 月 北海道大学医学部医学科 卒業

2005 年 4 月 室蘭日鋼記念病院 入職（初期研修医）

2007 年 4 月 室蘭日鋼記念病院 退職、川崎市立井田病院 入職（後期研修医）

2009 年 4 月 川崎市立井田病院 退職、栃木県立がんセンター 入職（専修医）

2012 年 4 月 栃木県立がんセンター 退職、川崎市立井田病院 入職（常勤医）

2014 年 6 月 +Care Project チーフマネージャー就任（NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメント）

2017 年 1 月 一般社団法人プラスケア 代表理事就任予定

- ・過去の事業経験：+Care Project チーフマネージャーとして 2 年間の事業経営経験あり

- ・取得資格：医師免許（医籍番号 450895 2005/4/15 登録）、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医（認定番号 1200085 2013/4/1 登録）

- ・知的財産権等：『緩和ケアの壁にぶつかったら読む本』（中外医学社 2016 年 2 月）

## （取扱い商品・サービス）

※詳細な売り上げ見込みについては後述の収支予算表に示す。

### 【暮らしの保健室】

（主たる目的）地域住民の健康に関する質問、生活にかかわるさまざまな相談、情報提供、医療コーディネーターとしての機能（病院と地域、医療と福祉の橋渡し）、住民の癒しの場の提供などを行うこと。

（メインターゲット）がんを中心とした重大な病気を抱える患者および家族

（方法）

川崎市中原区を中心とした地域で場所を借り、そこで相談事業や各種イベントなどを行う。

※暮らしの保健室となる場所を 1 か所に定めることは、川崎市においては家賃が高額となり維持費が問題となる上に、限られた近隣住民のみにしかサービスが提供できないという 2 重のデメリットが生じるため、地域内を定期的に巡回する方式での運用を行う。

（料金）

無料

※会費 5000 円／年：暮らしの保健室は会員ではなくても使用できるが、下記サービスを受ける際に会員であると優遇が受けられる。

※毎週金曜日（仮）については、武蔵小杉および武蔵中原駅から徒歩圏内の土地に株式会社太陽住建が建築中のコミュニティスペースの貸与を受ける予定である（2017 年 6 月竣工予定）。

### 【ナースサポートサービス】

（主たる目的）仕事を休めず、病気の家族を十分に支えることが難しい勤労者世代の負担・不安を軽減し、支えること。

（メインターゲット）家族が、がんを中心とした重大な病気を抱える 30～50 代の勤労者

※サブターゲットとして患者本人および高齢配偶者など

（方法）

病院の診察室や病状説明の場などに看護師を派遣し、患者および家族の代理人として、病状説明の聴取を行い、その内容を平易な内容に要約して、患者および家族へレポートとして提出する。また、患者・家族への精神的サポートや、医療相談、意思決定支援などを行う。また、家族が付き添える場合でも「医療知識をもった人にサポートしてほしい」という場面があれば対応する。

（料金）

会員：3500 円／時間（最低 2 時間から）

非会員：4000 円／時間（最低 2 時間から）

※上記の他に、消費税、武蔵小杉から目的地までの交通費を加算。

※既存の自費看護師サービスでは、6500～8000 円／時間かつ最低 4 時間以上、というものがあるが、これでは一部の高所得者しか利用できず、社会問題を解決する手段となりえない。「いくらであればこのサービスを利用したいか」ということで住民へヒアリングをした結果、概ね 2000～4000 円／時、中には「1 回 1 万円出してもよい」という方も多数おり、上記の価格設定が妥当と設定した。

#### 【よろず相談サービス】

・暮らしの保健室内、またはその他の場で、医師または看護師の専門職に 1 対 1 で個別相談が受けられるサービス

(料金)

会員：無料

非会員：1000 円／30 分

※30 分ごとの予約制。空きがある場合は随時受付。その他、ソーシャルワーカーや栄養士などへの相談も手配

#### 【勉強会：暮らしの保健室ラボ】

・Grand Labo：数か月に 1 度、2 時間の時間をとっての勉強会。現在「生と老と病と死のワークショップ」と称して、死生学を一般向けにアレンジしたワークショップを開催。

・Small Labo：毎月第 3 水曜に病気や健康問題などに関する 1 時間弱の勉強会を行っている。講師は地元の薬局や健康関連企業などから招聘し、それらと住民のつながりを作ると同時に、住民の健康意識の醸成を図る。

#### 【フィナンシャルプラン作成】

・がんなどの重大な疾患への罹患、またはそういったことを含めた将来への経済的不安に対し、現在の生活の資金計画の見直しの相談や、また今後に備えた保険の紹介などを行う。

・料金：2000 円／回

(創業年度収支予算表)

年間収入	年間支出
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己資金 1,400,000 円</li> <li>・ ナースサポート（収益事業） 7,000 円×1 回／月×12 ヶ月＝84,000 円</li> <li>・ 会費 5,000 円×200 人＝1,000,000 円</li> <li>・ 寄付金 1,000,000 円／年</li> <li>・ 助成金 1,000,000 円／年</li> <li>・ 勉強会（収益事業） 500 円×20 人（1 回／月）×12 ヶ月＝ 120,000 円</li> <li>・ 暮らしの保健室関連収益＝120,000</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費 200,000 円／月 ×12 ヶ月＝2,400,000 円</li> <li>・ 交通費（通勤手当） 5,000 円×12 ヶ月＝60,000 円</li> <li>・ 社会保険料（約 15%） 360,000 円</li> <li>・ 保健室家賃（元住吉） 20,000 円／月×12 ヶ月＝240,000 円</li> <li>・ 保健室等賃貸料（その他） 20,000 円／月×12 ヶ月／年＝240,000 円</li> <li>・ オフィス賃貸料 12,000 円／月×12 ヶ月＝144,000 円</li> <li>・ Web サイト維持費 12,000 円</li> <li>・ 外部委託費（行政書士・税理士等） 400,000 円</li> <li>※登記費用など含む</li> <li>・ 広告費・印刷費 200,000 円</li> <li>・ 法人税 48,600 円（税率 15%として）</li> <li>・ 雑費 119,400 円</li> <li>・ 次年度投資および研究費 500,000 円</li> </ul>
計 4,724,000 円	計 4,724,000 円

## （セールスポイント）

2017 年 1 月現在、川崎市中原区周辺には「暮らしの保健室」の機能をもった組織および施設は存在せず、当法人のサービスが唯一である。全国における暮らしの保健室は、人口が少ない地域においても年間 1000～2000 人単位で利用されており、川崎市のような人口過密地域では、よりその需要は高いと考えられる。その地域において、当法人がサービス提供の先鞭をつけることは大きな営業上の有利性がある。

加えて、拠点を 1 か所に定めず、地域内を巡回する暮らしの保健室サービスは既存のサービスはない新規性があり、幅広い地域への訴求性があると同時に、社会的な意義も大きい。さらに、収益を上げ、独立採算を目指す暮らしの保健室の形態は全国でも類がなく、中でも「看護アドボカシーサービス」は、これまで多くの方が高額で利用不可能であった自費看護師を、目的を明確にしたうえでより気軽に利用できるようにしたことで、大きな革新性があるとする。

川崎市は、その重点政策に「地域包括ケアの推進」を掲げており、本事業の目指すところは、この方策を推進することに強く寄与する。

## （取引先・取引関係など）

- ・一般個人を対象

年齢などモデル：60～80 歳（主に患者など）および 30～50 歳（主に家族）の男女

対象範囲：川崎市中原区を中心とした周辺エリア

対象人数：500 人／年（会員として）および 3000 人／年（その他利用者として）

## （スタッフ）

- ・代表理事：西智弘（川崎市立井田病院 腫瘍内科・緩和ケア 医師）
- ・顧問：須藤シンジ（ピープルデザイン研究所 代表）
- ・理事：芋川祐樹（Life Care+ 保険販売業）
- ・理事：濱田美智也（Life Care+ 保険販売業）
- ・監事：野田洋平（野田洋平行政書士事務所）
- ・スタッフ：渡邊麗子（看護師）
- ・ボランティアスタッフ：武見綾子（川崎市立井田病院 がん看護専門看護師）
- ・ボランティアスタッフ：三芳和加子（ソーシャルワーカー）
- ・ボランティアスタッフ：石山美行（中原区民）
- ・外部アドバイザー：田上佑輔（やまと在宅診療所 医師）
- ・外部アドバイザー：矢田明子（株式会社 Community Care 取締役）

※理事については当社団からの一切の報酬の受け取りは発生しない。

**(借り入れの状況)**

- ・代表理事個人の借り入れ状況について以下の通り開示する。

住宅ローン：JA セレサ川崎 住吉支店 残高 48,862,772 円（2016 年 12 月末）、年間返済額 2,164,404 円